

# 令和7年度 とうきょうすくわくプログラム活動報告

令和8年5月

三鷹若葉幼稚園

三鷹若葉幼稚園では、東京都の「とうきょうすくわくプログラム」に参加し、園ならではの教育資源を生かした年間の探究活動を通して、子どもたちの学びの芽を大きく育んできました。

本年度は、40年以上続く英語活動、園内のこども農園での栽培活動や食育活動、玄関の水槽での生き物観察という当園ならではの教育資源を生かし、子どもたちが「そだつ」「つたわる」「いきる」を実感しながら学びを深められる体験を重ねました。

## 1. 外国人と外国語および外国の文化に親しむ

当園では、40年以上にわたり、ネイティブの先生と日常的に英語で触れ合うことのできる環境を整えてきました。

今年度は、外国人や外国語への関心をさらに深め、英語を単に「学ぶもの」としてではなく、「ことばっておもしろい」と感じられることを大切にしながら、探究活動を展開しました。

### 活動内容

ネイティブの先生と触れ合いながら、自分の耳で外国語の響きを感じる体験を重ねました。

また、見た目や発音、表現の仕方の違いに気づき、外国のことばを使うことのおもしろさや楽しさを感じられるようになりました。

身振りや表情、表現の仕方の違いを感じ取り、相手が伝えようとしていることを視覚からも理解しようとする姿が見られました。

ゲームや遊びを通して、日本と外国の文化の共通点や相違点を感じるとともに、同じ遊びでも国によって親しまれ方や表現の仕方が異なることにも気づいていきました。



### 配慮や設定・子どもの様子

初めて英語に触れる子どもには、安心して参加できるよう、教師がそばに付き添いながら援助しました。

季節や時期に応じたイラストカードを用意し、子どもたちが親しみやすい環境づくりを行いました。

イラストカードを見ながら発音に親しみ、クイズやゲームにも参加することで、英語を楽しみながら体で感じることができました。

教師と一緒に英語を楽しむ中で、英語の感覚に親しみ、自然にコミュニケーションをとりようとする姿が見られるようになりました。

## 振り返り

子どもたちは英語を楽しみ、話すことができる喜びを感じられるようになりました。回数を重ねるごとに、英語活動に積極的に参加し、自ら大きな声で英語のことはを発音する姿が増えていきました。

考えてから話すのではなく、問いかけに対して自然に英語で反応する姿も見られました。

園には外国から来たばかりの子どももおり、その子たちとの英語でのやり取りを通して、コミュニケーションを取ろうとする姿や、会話を楽しみながら関わる姿が見られました。

## 2. 「食」を通して健康、発達を知り、確かめる

園内のこども農園では、なす、きゅうり、トマトなどの野菜を栽培・収穫し、年中・年長では調理活動を含む「食育教室」を年間を通して実施しました。

食を通して食べ物への興味や関心を深めるとともに、自分自身の成長や健康にも目を向けられるよう、活動を進めました。

### 活動内容

幼稚園に隣接したこども農園で実際に野菜を植え、水やりをしながら育てる中で、成長の過程や周囲の環境に気づき、小さな生き物との関わりも感じられるよう取り組みました。

食育教室では、食べるだけでなく、食材の由来や調理についての理解を深め、自分でも作ってみたいという気持ちや工夫しようとする意識を育みました。



### 配慮や設定・子どもの様子

農園活動では、きゅうり、なす、トマトの苗を用意し、子どもたちと一緒に畑へ植えました。水やりをしながら、成長に必要な条件についても考えられるようにしました。

農園には野菜ごとの名前を表示し、育っていく様子が分かるよう工夫しました。

食育教室では、実際の食材に触れられるよう準備し、調理器具も用意しました。

野菜や食材を五感で感じ、実際に食べる経験を重ねる中で、子どもたちは「もっと食べたい」「もっと作ってみたい」という意欲を高め、食への関心や食べる意欲を大きくしていきました。

## 振り返り

食べ物を身近に体験することで、苦手だったものにも少しずつ挑戦してみようとする気持ちが育っていきました。

この活動を通して、苦手な野菜が食べられるようになった子どももいました。食育教室では、果物など身近な題材が多かったため、子どもたちは興味を持って参加していました。

食材に実際に触れたときには、大きさやにおいにもよく反応していました。

### 3. 水の世界の生物に関心を持ち、命を知る

幼稚園に大きな水槽を設置し、熱帯魚やサンゴ、甲殻類などを飼育することで、小さな海の世界を再現しました。

海の生物を観察することを通して、生命への理解を深め、命を愛しむ気持ちを育むとともに、生き物の生態を知ることで次の発見への期待や観察する力を養いました。

#### 活動内容

玄関に設置された大きな水槽に興味を持ち、日常生活の中で再現された小さな水の世界に目を向けながら、海の生物の生態に親しみました。さまざまな生物が命の循環の中で果たしている役割にも気づいていきました。

魚や貝などに興味を持ち、名前を覚えながら、それぞれの生態について学びました。

また、命を愛しむ気持ちも少しずつ育っていきました。



#### 配慮や設定・子どもの様子

玄関に大きな海水の水槽を設置し、定期的に海水の交換や水槽の清掃を行うことで、生物にも子どもにもよい環境を整えました。

生物の写真や名前のプレートを掲示し、子どもたちの関心を高めました。

新しい魚が加わると、お便りや日々の伝達を通して知らせ、子どもたちの「見てみたい」という気持ちを高めました。

魚や甲殻類の様子を観察する中で、それぞれの特徴に気づく子どももいました。

教師と一緒に魚を探す姿が見られ、子ども同士でも生き物についての知識を伝え合う様子が見られました。

#### 振り返り

普段通る場所に海の生き物を設置したことで、子どもたちは自然とそれらへの興味や関心を高め、友だち同士で話し合ったり、じっと様子を見入ったりする姿が見られました。

興味を持った子どもは細かなところまでよく気づき、友だちや教師と会話をしたり、家庭や本でも調べたりしながら、より深く知ろうとする姿が見られました。

興味が薄かった子どもも、少しずつ関心を持つようになり、友だち同士の会話の中で互いの知識を深めていく姿が見られました。

#### 4. 3つの活動をつなぐ“探究の広がり”

今年度のすくわく活動では、英語・農園・水槽という3つの活動が自然につながり、子どもたちの探究が園全体へと広がっていきました。

水槽の生き物の名前を英語で言う姿が見られました。

収穫した野菜を英語で紹介しようとする場面も見られました。

生き物の動きと野菜の育ちを比べながら、それぞれの変化に目を向ける姿も見られました。

「どうしたら伝わるか」「どうしたら育つか」を自分で考える姿が育っていきました。このように、活動同士が連動することで、「自分で気づき、考え、試し、つながりを見つける力」が育ちました。

#### 5. まとめ

三鷹若葉幼稚園では、これからも園の特色を生かしながら、子どもたちが「わくわく」しながら学びを深められる環境づくりを続けていきます。

このすくわくプログラムで得た学びを、来年度以降の教育活動にも着実に活かしてまいります。